

「市町村社会教育・生涯学習関係職員等研修会」事業報告

1 事業名 令和2年度 市町村社会教育・生涯学習関係職員等研修会

2 期 日 令和2年10月22日（木）

3 参加者 32名

4 日 程

時 程	研 修 内 容
13:20	
13:40	受 付
13:50	開 会 行 事
14:05	ガ イ ダ ン ス
14:35	研修1〈実践事例発表〉 「シニアパワーアップ塾の力をつながりづくりへ」 ～自分らしく気負わずに輝く「人財」の育成をめざして～ 添田町教育委員会社会教育課 文化振興係長 東 洋一 氏
14:45	研修2〈講話〉 「地域の『人財』の活用と新たなつながりづくり」 近畿大学産業理工学部 准 教 授 長谷川直樹 氏
15:30	閉 会 行 事
15:40	

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修1では、添田町教育委員会社会教育課の東係長が、高齢者を対象にまちづくりに参加するボランティアの養成をめざす公民館主催の「シニアパワーアップ塾」の取組についての実践事例発表を行いました。

東係長には、高齢者が長年培ってきた経験等を活かして、地域で活躍できる場の拡大、地域間や世代間の交流をめざすために、学校や福祉の関係機関と連携しながら、地域活動やまちづくりボランティア活動、子どもたちとの交流・学習事業を行ってきたことについて、プレゼンテーションソフトを使ってわかりやすく発表をしていただきました。

参加者からは取組についての質問もあり、高齢者どうしの学びをどうつくっていくのかということについて興味深く学ぶ様子がみられました。

(2) 活動写真



シニアパワーアップ塾の説明をする東係長



東係長に質問をする参加者

(3) 参加者の声

- シニア世代の方が趣味を活かして活動をしているので、ボランティア活動の参加者が増え、たくさんのコミュニティが広がり、地域のつながりが広がると感じました。
- 「活動して楽しいと思ってもらうことを大切にしている」という言葉にハッとさせられました。住民目線に立つと確かに楽しくないと参加しないし続かないだろうと思います。うまく地域づくりにつなげていけるかどうかはアイデア次第だと感じました。

研修 2

(1) 内容

研修 2 では、近畿大学産業理工学部長の長谷川准教授が、若者が地域に愛着をもつことができることをめざして、地域の「人財」活用の必要性と可能性、新たなつながりづくりの提案についての講話を行いました。

長谷川准教授には、若者が地域に愛着をもつためには、ただ地域において「つながり」をつくるのではなく、小・中学生の経験として、地域の「人財」が主体的で積極的な考え方をし、地域の「よさ」を教え、地域の人々とのつながりをつくり、まちの未来をつくる方法を学ぶ機会を与えることができるようにすることが必要であると説明していただきました。また、地域の「人財」の中心は、時間や社会の制約が比較的少ない「シルバー世代」といわれる高齢者であることも説明していただきました。

参加者は、地域の「人財」には、地域の活性化にむけた担い手として、地域の若者に夢や希望をもたせることの重要性や、地域活動への参加を積極的に働きかける必要性について学びました。

(2) 活動写真



講話を行う長谷川准教授



メモをとるなど熱心に講話を聴く参加者

(3) 参加者の声

- 地元の魅力を多く知ってもらうことの重要性を強く感じました。そのような経験の場づくりを試行錯誤しているところです。知識活用型のボランティア活動を考えてみたいと思いました。
- 人材の中心は「シルバー世代」に勇気が湧きました。若い人を育てるのに、私たちの役割が大きいことを改めて感じました。

6 全体をととして

今回の研修会のテーマは、3つの○(まる) (①「人財」を育てる○、②「人財」どうしをつなぐ○、③「人財」どうしのつながりから地域と学校とのつながりを作る○) の作り方を学ぶことでした。

参加者からは、今回の研修で「公民館事業の教室等、もっと多くの方が参加できる内容にならないか、新しく考えていきたいです。」「新型コロナ感染拡大によって、地域で生活する時間が増え、シルバー世代、次世代の担い手の掘り起こしに目を向けてみたいです。」「高齢者等のボランティアを利用して、学校との連携をしたいと思いました。」などという感想がありました。このことから、参加者は、どの年齢層にとっても、魅力のあるまちづくりのためにつながりづくりを図ることが大切であることを学ぶことができたと考えます。また、「人財」の育成に向けて異年齢の人々がつながりをつくり、地域のよさに焦点をあて活性化を図る取組みを進めるきっかけづくりにもなりました。